

氏名：楠原 由樹子
隊次：平成 19 年度 4 次隊
期間：H20/3～H22/3
職種：小学校教諭

サモアのエピソード

「おもてなしのラーメン」

私の知っているサモア人はインスタントラーメンが好きで、同僚は朝から売店で紙カップについだラーメンを買い、それを食べながら通勤している。そんなサモア人の同僚と仲良くなって実家に招待された時、宿泊した翌日の朝食には、他の家族を差しおいて私にだけカップラーメンが用意されていた。ちょっと驚いたが、本人やその家族も大好きなカップラーメンで友情を表してくれていると思うと、なんだか嬉しいものだった。



おもてなしのラーメン写真

「日陰に並ぶ」

サモアはとてとても暑い国です。私の活動場所は小学校だったのですが、日中グラウンドに出ていると、何となく自分が焦げている匂いがするようになるほどです。そこで暮らすサモア人にとってもその暑さは大変なものらしく、少しの日陰も見逃さず利用しています。小学校の生徒は下校時に、日陰に並んで保護者が迎えに来るのを待っていました。滑り台の下とはなかなかいい場所を見つけたものだと感心しました。



日陰に並ぶ

「手動ドアタクシー」

私がサモアに滞在し始めた頃、道路を走っている車はどれも同じように古めかしいものだった。(最近はきれいな車も多く走っている)タクシーも例外ではなく、窓が無いのでビニール袋をかぶせてガムテープで留めているのは当たり前で、目的地で降りる時に内側からドアが開けられないので、窓から手を出して、外側から開ける、という手動タクシーにも乗ることも頻繁にあった。日本のタクシーはサービス満点だな、と感じる瞬間だった。

* 残念ながらタクシーの写真がありませんでした。

2年間の活動について

私は19年度4次隊として、2008年3月～2010年3月までの2年間、サモア独立国で小学校教諭として活動しました。

私の配属先は2004年に開校したサモア小学校という私立の小学校で、活動当時は1年生～8年生の約320人の生徒、約20人の教員がいました。要請内容は、体育、図画工作、コンピューター技術の授業の実施で、美術教育等を通じた情操教育が期待されていました。

しかし、私はこの小学校で初代の隊員だったこともあり、授業時間が確保できるまでなかなか授業ができなかったり、コンピューター技術の指導とあっても帰国3か月前までパソコンが無かったりと、どのように活動を進めていくか、まさに手探りの状態が続いたように思います。

いざ活動が始まっても、学校に備えてある図画工作用の用具の管理不十分や数不足などにはいつも悩まされ、管理簿を作成してもうまく運用されなかったこともありました。子ども達も、それまで図工の時間は主にマジックで決まったデザインの絵を描くことが多かったので、授業当初は自身の発想や作品に自信が無く、作業をなかなか進められない子どもがとても多かったのが印象的でした。それでも子ども達には、学校にある用具や材料を使って、楽しみながら、できるだけ多くの作品を作り出す経験をさせるように努めた甲斐もあってか、2年の間にずいぶん子ども達も図画工作の授業を楽しみにしてくれるようになり、自信を持って作品を作る子も増えてきました。しかし、想像力を膨らませて、それを活かすことは想像以上に難しく、根気のいるものだと実感しました。

体育の授業については、現地教員による運営が確立していたので、私は補助的に指導し、ストレッチや準備体操等を紹介していました。サモアの子供達も、運動神経は良いものの、準備運動やストレッチをしたことがなかったため、開脚の屈伸でひっくり返ったり、前転ができなかったり、最初は運動する度に大騒ぎでしたが、もともと何事も楽しんでやってしまう国民性ですので、いつの間にか準備運動する姿も板に付くようになっていました。その一方で、裸足での授業(室内外問わず)や、制服を着たままの体育など、子どものために考えるべき問題点はまだまだ残っていると思います。

また、私一人による活動以外には、同じくサモアで活動していた環境教育隊員と共に、使用済みのペットボトルを利用して、環境教育を兼ねて、ペットボトルクリスマスツリーを2年連続作成しました。作られたツリーは、1年目は地元の国立病院で年を越す患者さんのために、2年目は2009年9月29日にサモア沖で起こった地震により津波被害を受けた村に移設し、それぞれの場所で頑張っていたサモアの人たちに喜ばれ、子ども達にとっても貴重な経験になったと思います。

その他、空いた時間には算数や英語の授業の補助、図書室の管理業務補助と、できる限り学校教育の手助けになるように努めました。やはり2年間の活動中は、現地の先生達と考え方が違ったり、子ども達に自分の思いを上手く伝えるために、悩んだり、考え込むこともたくさん経験しました。しかし、その悩みを吹き飛ばしてくれ、慰めてくれたのも、同じく現地の先生であり、子ども達でした。支援するつもりで現地においても、やはり現地の人とのつながりがあるからこそ活動だと強く感じました。サモアの人たちは大らかで、優しく、笑顔のかわいい人達ばかり。本当にサモアで活動できてよかったと思います。

また、日本からは関係者を始め、友人達からいつも暖かい励ましをいただき、どこにいても人と人とのつながりの大切さ、ありがたさを実感する2年間だったと思います。この2年間の貴重な経験と、活動を通して出会った人達とのご縁を大切にしながら、これからも何か自分にできることをやっていきたい、という思いは現在も私の原動力になっていると思います。



約320人で共有してたクレヨン



図工の授業



帰国直前にきた PC を使う生徒



ペットボトルクリスマスツリー



ネットボール授業風景



サモア小の生徒1年（5歳）



約320人で共有していた絵具